

鹿大ジャーナル

KADAI JOURNAL

<http://www.kagoshima-u.ac.jp/>

焼酎学講座

特集

鹿児島大学 日本初の試み

臨床心理学研究科

鹿大「知」の探検

鹿児島から東南アジア考古学の魅力を発信

アラムナイ追跡隊

日本郵政株式会社取締役 北村 憲雄さん

輝く鹿大生

上松 真弥さん

鹿大見てある紀

鹿児島大学インフォメーションセンター

なんでも情報版「みみずく」

県教育委員会との人事交流に関する覚書を締結

地元企業と地域再生シンポジウムを開催

公開講座・オープンキャンパスのご案内 ほか



特集◆鹿児島大学

日本初の試み①

日本初の専門職大学院

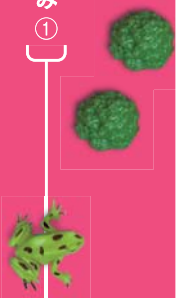
臨床心理学研究科

臨床心理学専攻

平成19年4月、臨床心理士養成を目的とした専門職大学院

「臨床心理学研究科臨床心理学専攻」が設置された。

専門職大学院として、臨床心理士を養成する研究科を独立して設置するのは日本初。実習時間を大幅に増やし、長年、現場で活躍してきた臨床心理学のスペシャリストを講師陣に迎えるなど、高度な専門性をもった即戦力養成のための体制が整っている。



不 登校、いじめ、子育て不安、ストレス、職場の人間関係など、

こころのケアを必要とする人々はたくさんいる。人間のこころの問題がクローズアップされる今日、それらに適切に対応し、支援していく臨床心理士への社会的要請が増している。

今年4月、臨床心理士を養成する独立研究科としては日本初の専門職大学院「臨床心理学研究科臨床心理学専攻」が鹿児島大学に設置された。定員は15名、修了年限は原則2年となっている。修了すると「臨床心理修士(専門職)」の学位を取得できる。

専門職大学院設置の背景

昨年度まで、鹿大は臨床心理士の養成を人文社会科学部研究科臨床心理学専攻で行っていた。平成16年には臨床心理士養成のための第1種指定大学院に指定され、南九州の臨床心理士養成の拠点として、大きな役割を果たしてきた経緯がある。

しかし、臨床心理学研究科長の山中寛教授によると、第1種指定校であっても、即戦力の養成という観点から見れば不十分な面があったという。「現場経験を積む実習などの時間がまだ足りませんでし

た。即戦力となるには、学生時代の現場経験が物を言う。深い学識と卓越した能力を培うための教育、それを支える指導体制を備えた専門職大学院を、と考えていました」(山中教授)

「専門職大学院」は、平成15年の学校教育法改正により設置が可能となった大学院で、高度で専門的な職業能力をもった専門家の養成を主眼にしている。

人間の心をケアする臨床心理士は、「こころの専門家」として高度な知識と技能が必要。そのため、研究者養成に重点がおかれていた通常の大学院とは、教育体制・内容がまったく異なる専門職大学院臨床心理学研究科臨床心理学専攻が設置されたのだ。

同研究科では実習時間が大幅に増えた。現場の第一線で活躍してきた臨床心理学のスペシャリストを教員に採用し、最新の知識や現場の実態を学ぶことができるようにするなど、レベルの高い教育ができる体制を整えている。専門職大学院として臨床心理士養成のための研究科を独立して設置したのは、全国でも鹿大だけだ。それでは、同研究科の教育の特色を詳しくみていこう。

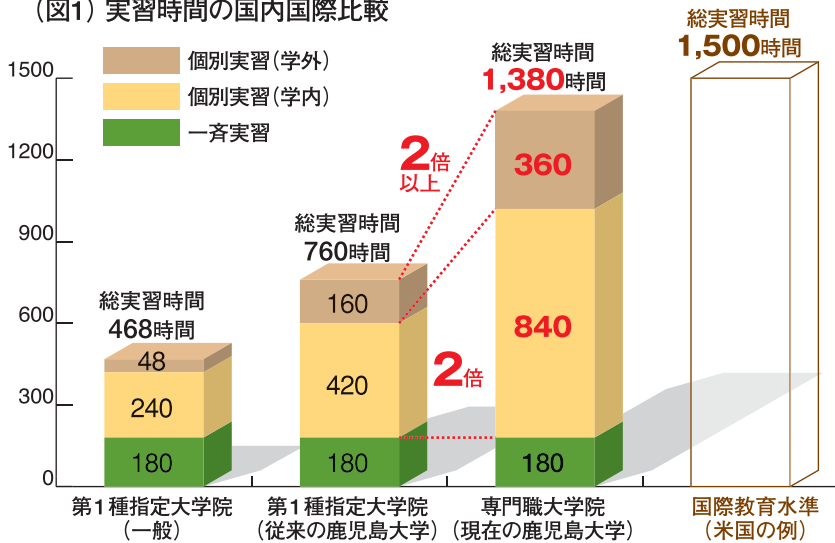
*2

専門職大学院の背景には、複雑化した現代社会で職業が細分化され、より高度で専門的な知識や技能が必要とされる職業が増えているという現状がある。弁護士や裁判官などの法曹を養成する法科大学院も、専門職大学院の一つ。

*1 第1種指定大学院

臨床心理士となるには、(財)日本臨床心理士資格認定協会が指定する指定大学院の修了が必須。指定大学院は第1種と第2種に分けられる。第1種指定校修了者は修了と同時に、第2種指定校修了者は修了後1年以上の心理臨床経験を経て、受験資格を得ることができる。専門職大学院の修了者は、修了と同時に受験資格が得られるほか、一次試験の小論文試験が免除される。

(図1) 実習時間の国内国際比較



遜色のない時間数だ(図1)。

1 国際水準に準じた実習時間とスーパービジョン体制

修了単位はこれまでの30単位から、50単位に増える。総実習時間は1380時間以上。臨床心理学の専門職大学院としてはもともと進んでいるアメリカと比較しても

深い学識と卓越した能力を培う教育体制

学生たちに箱庭療法の指導をする落合美貴子教授。箱庭療法は、砂を入れた小箱の中にさまざまな玩具で自由に箱庭を作らせる。臨床心理学の治療法の一つ。箱庭の全体的な印象やテーマなどを観察し、来談者の現状やこれから向かおうとしている方向を理解する。



また、教育、福祉、医療、司法・矯正の各領域に合わせた心理支援のあり方を学ぶ科目や、地域特性や文化的風土を視野に入れた心理支援を学ぶ科目「エスノグラフィック心理臨床論」(日本初)、「コミュニティ心理学特論」を導入。さらに、実践的な心理支援能力養成のために、「臨床心理地域援助実習Ⅰ～Ⅳ」も開設した。

2 講義・実習・演習が三位一体となった教育課程

教育課程は講義・実習・演習が三位一体となっているのが特徴だ。理論を学ぶ講義、理論を実践する実習、実習で体験したことを理論につなげる演習が同時進行するため、理論と実体験のつながりが理解しやすい。特に、演習は実務家教員と教育・研究教員が共同で担当し、理論と実践を同じ時間内に学ぶことができるため、習ったことが身につくのも早い。

3 ハイレベルな教育を支える臨床経験豊富な実務家教員

これからの教育を可能にするのが、充実した講師陣の存在である。専任教員9名(教授6名、准教授3名)、学内兼任教員6名、学外非常勤講師5名の計20名がスタッフとして教育にあたる。

専任教員一覧		研究内容・専門分野	
実務家教員	教授	落合美貴子	福祉領域における母子支援の実践的研究
	教授	高橋泰夫	司法・矯正領域での知見をもとにした非行予防のための生活指導等の研究
	教授	松木 繁	教育領域における学校臨床心理学の実践、研究
	准教授	金坂弥起	精神科医療領域における実践的研究
教育研究教員	教授	安部恒久	臨床心理学、グループ・アプローチ法
	教授	平川忠敏	臨床心理学、コミュニティ心理学
	教授	山中 寛	臨床心理学、ストレスマネジメント法
	准教授	中原睦美	臨床心理学、ロールシャッハ法
	准教授	服巻 豊	臨床心理学、精神薬理学

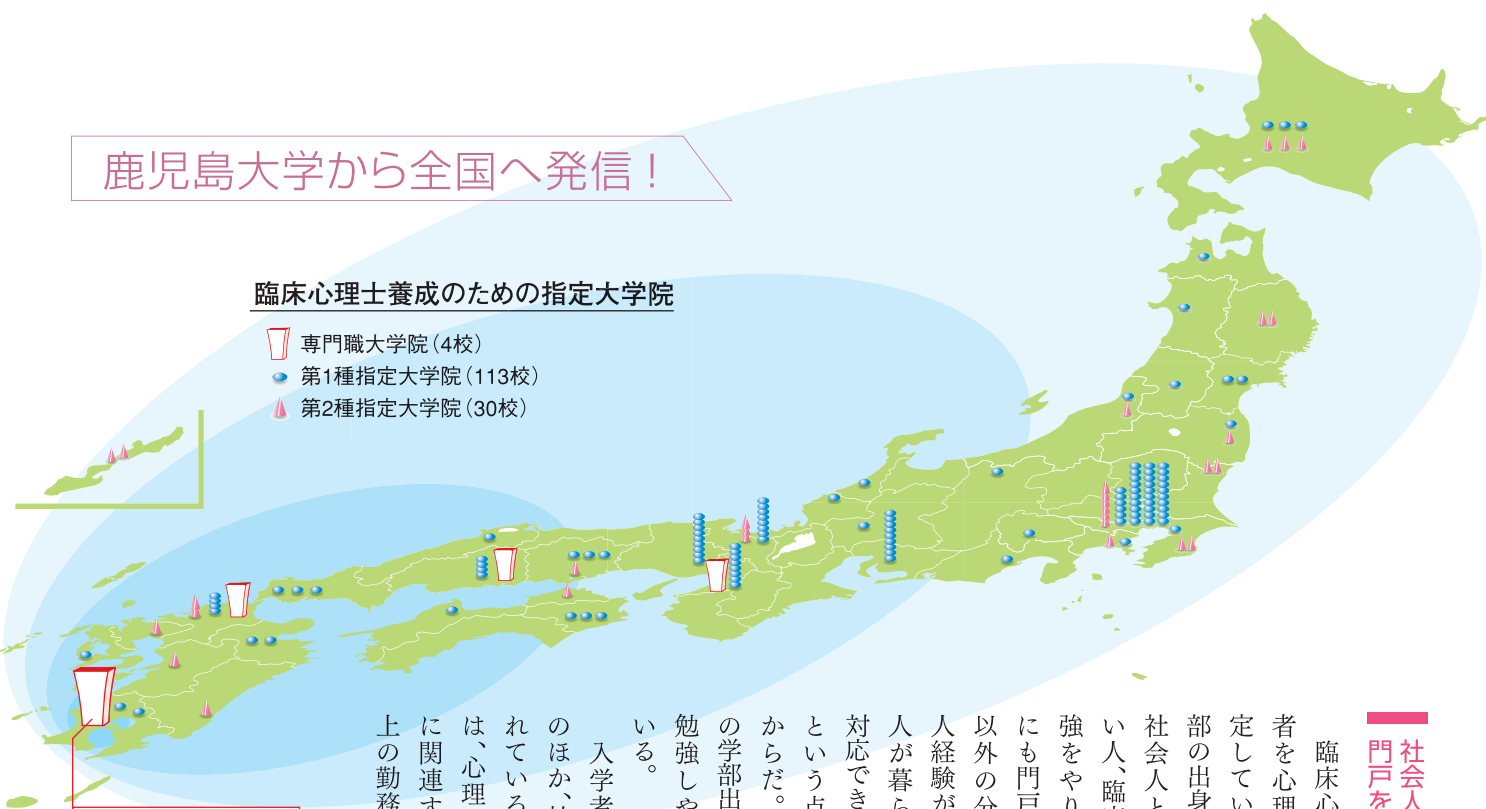
9名の専任うち4名の実務家教員は、全国各地の教育、福祉、医療、司法・矯正というそれぞれの領域で指導的役割を果たしてきたスペシャリストで、教授で20年以上、准教授で10年以上の実務のキャリアを有している。

*3 学内兼任教員
臨床心理学研究科臨床心理学専攻の講義を担当する、鹿児島大学の他学部、他研究科の教員のこと。

鹿児島大学から全国へ発信！

臨床心理士養成のための指定大学院

- 🏠 専門職大学院 (4校)
- 第1種指定大学院 (113校)
- 🚩 第2種指定大学院 (30校)



鹿児島大学大学院
臨床心理学研究科
臨床心理学専攻

入学者選抜試験には一般選抜のほか、社会人特別選抜が設けられている。社会人特別選抜の対象は、心理職、その他臨床心理学等に関連する職場において2年以上の勤務経験のある人。昼夜開講

臨床心理学研究科は、入学志願者を心理学系の学部卒業者に限定していない。心理学系以外の学部の出身者、社会人経験のある人、社会人として働きながら学びたい人、臨床心理士でありながら勉強をやり直したいと希望する人にも門戸を開いている。心理学系以外の分野を学んだ経験や社会人経験があることは、さまざまな人が暮らす地域社会のニーズに対応できる臨床心理士を養成する、という点で強みになるとの考えからだ。そのため、心理学系以外の学部出身者や社会人であっても、勉強しやすい環境が整えられている。

社会人にも 門戸を開くための工夫

制を利用して、夜間に講義を受けることも可能だ。

短期・長期履修制度も、多種多様な背景をもつ入学者を支援する制度だ。たとえば、他大学の第1種指定大学院を修了した学生であれば、修了年限より短い期間で修了することができる。心理学系の勉強をした経験がない場合、社会人として働きながら学ぶ場合、幅広く勉強し直したい人の場合は、2年以上の時間をかけて学ぶことも可能だ。

臨床心理士供給の トップランナーとして

臨床心理学研究科は独自の工夫をこらし、学生にとってもっとも効果的な教育課程と、最適な学習環境をつくり上げている。深い知識、卓越した能力をもった即戦力としての臨床心理士を養成するという点で、同研究科は日本トップレベルの臨床心理士養成機関といえるだろう。

日本全体でみても、専門職大学院の数はまだまだ少ない。日本における臨床心理士供給基地のトップランナーとして、鹿児島大学が果たしていく役割は、今後さらに大きなものとなるだろう。

鹿児島大学大学院 臨床心理学研究科臨床心理学専攻

<http://www.leh.kagoshima-u.ac.jp/kumcp/>

- ・募集定員／15名
- ・入試時期／12月予定
- ・入学者選抜試験／一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜のいずれかによる
- *臨床心理学研究科の入学者選抜試験や出願などについては、下記までお問い合わせください。
鹿児島大学法文学部大学院第二係
〒890-0065 鹿児島市郡元1丁目21番30号
TEL 099-285-7504 (土、日、祝日を除く 9:00~17:00)

鹿児島大学大学院心理臨床相談室

鹿児島市郡元1丁目21番30号総合教育研究棟4F

<http://www.leh.kagoshima-u.ac.jp/cphs/mc/index.htm>

当相談室は地域に開かれた「こころの相談室」です。鹿児島大学大学院臨床心理学研究科の教員、医療福祉機関等に所属する臨床心理士有資格者である臨床相談員と、有資格者の指導を受けている研修相談員・実習相談員(大学院生)がご相談に応じます。

*予約制、有料

電話受付時間／月曜日～土曜日の13:00～17:00(祝祭日は除く)

予約・お問い合わせ／TEL 099-285-7208(直通)

料金の一例：初回面接 3,690円
ご本人への面接 2,880円
ご本人の家族・保護者への面接 ... 1,920円

日本初の「焼酎学講座」

平成19年4月、鹿児島大学に日本初の「焼酎学講座」が開講した。「焼酎王国」鹿児島における焼酎の教育・研究拠点として、地域に貢献することが期待されている。その教育・研究はどのようなものなのか。

焼

酎学講座は、5年間の寄附講座である。平成18年度から平成22年度までの5年間で、県内焼酎メーカーと鹿児島県酒造組合連合会が4億5000万円、鹿児島県が5000万円を寄附する。平成18年4月に設置され、平成19年4月に開講したばかりだ。

寄附講座の設置にあたっては、焼酎学を専門とした教育コースを構想していた鹿児島大学に、文部科学省産学官連携コーディネーターの砂田向彦氏と電通九州鹿児島支社が講座設置を提案、日本政策投資銀行南九州支店とともに酒造業界の取りまとめに動いた。

産学官の連携によって、5000年に及ぶ鹿児島の焼酎の歴史、文化、技術を「焼酎学」という学問と

して体系化し、焼酎文化と技術の伝承者、新技術開発の

できるリーダーを育成していく。つまり、「焼酎のプロ」の養成を目的とした講座といえる。

講師陣には、焼酎業界や県の工業技術センター、研究所、大学などから、焼酎製造や醸造・発酵微生物の専門家を迎えている。平成19年7月には、焼酎学講座の教育・研究を支える「研究・実習棟」が完成した。従来の施設ではできなかった実習や実験も可能となり、大学にいながらにして焼酎づくりの基礎を学べるという恵まれた環境が整いつつある。

今、まさに動き始めた焼酎学講座。その教育・研究内容について紹介する。





教授
鮫島吉廣

Sameshima Yoshihiro

元薩摩酒造株式会社常務取締役・製造部長・研究所長。専門は焼酎製造学、発酵工学、醸造学。

「焼酎に関することなら何でも研究対象になりますが、主に製造に関する研究開発を行います。原料が焼酎に与える影響、焼酎粕の機能性を高める製造方法などのほか、なぜ鹿児島の人々は焼酎を好むのかなど、焼酎の文化的側面も研究対象です」



准教授
高峯和則

Takamine Kazunori

元鹿児島県工業技術センター主任研究員。専門は発酵工学、醸造学、焼酎製造学。

「原料のコガネセンガンが、なぜ焼酎づくりに適しているかは科学的に証明されていません。芋のどの部分、どの成分が香りに影響を及ぼしているかが分かれば、芋の品種改良にも役立ち、さまざまな風味をもつ焼酎の開発にもつながります」



焼酎製造学研究室

教育内容

焼酎学講座は農学部生物資源化学科の学生を対象としている。

同講座で学ぶには生物資源化学科に入学し、3年生から同講座を選択することが必要だ。今年も8名の3年生が焼酎学講座に進んだ。後期の10月からは「焼酎製造学研究室」と「醸造微生物学研究室」に分かれ、それぞれの課題研究に取り組む。

焼酎学講座のカリキュラムは、「焼酎学」という名にふさわしく、さまざまな角度から焼酎についての理解を深めることのできる内容となっている。「焼酎学Ⅰ・Ⅱ」を柱とし

ながら、焼酎をとりまく文化や、世界の酒文化、焼酎粕などの環境問題、経営実学、感性心理学などを学ぶことができる。また、企業でのインターンシップや実習なども実施。来年4月からは大学院修士課程も開講する予定だ。

専任教員は、焼酎製造や醸造・発酵微生物の専門家5名。客員教授には、醸造・発酵学の専門家として著名な東京農業大学の小泉武夫教授を迎えた。講義によっては他学部の教員や学外の専門家が講師となる。

焼酎学講座を卒業した学生の就職先としては、酒造メーカー、発酵関連企業、酒造関連設備メーカーなどを想定している。

焼酎学講座の新設科目

科目名	内容
焼酎学Ⅰ (比較酒文化論、 焼酎製造学) 3年前期	世界の酒の製法やその文化を学び、焼酎と比較することで、焼酎を客観的にとらえ、焼酎の独自性を考える。また、焼酎の基本的な製造工程について学び、酒質との関係について理解を深める。
焼酎学Ⅱ (醸造微生物学) 3年後期	酵母や麹菌などの真核微生物および乳酸菌などの原核微生物の基本的な性質を学ぶ。
焼酎文化論 4年前期	文化としての「食」や「酒」をどうとらえるか、また食べる行為、飲む行為によって育まれてきた文化の周辺について学ぶ。
バイオマス資源学 3年後期	バイオマス資源について概説し、エネルギーとしての評価方法を学ぶことで、焼酎粕をはじめとする焼酎の環境問題を考える。
感性心理学 4年前期	造形行動や芸術を楽しむ心理を学び、自由な発想で芸術を楽しむ感性を養うことで、パッケージデザインなどの商品開発に生かす。
実践経営論/ 経営実学 3年前期	企業経営、ベンチャービジネスなどに関する教育を通じ、積極性、主体性、倫理意識、創造性、責任感のある人材を養成する。
薩摩の歴史と焼酎 4年前期	鹿児島県の環境、エネルギー、教育、地域産業、観光などについて歴史的視点から講義する。
焼酎学実験 3年前期	分析手法を習得するとともに、学内の研究・実習棟において焼酎づくりを体験する。また、麹菌、酵母の分類について実習する。

助教
尾花由美子

Obana Yumiko

北海道大学大学院農学研究科応用生命科学専攻修了。専門は生物化学、酵素化学。

「原料の植物に麹菌や酵母という微生物が関わってでき上がる焼酎の奥深さを知り、広い観点から研究ができるのではと楽しみにしています。長い歴史の中で積み重ねられてきた焼酎づくりの工夫に科学的な裏付けをしていきます」



教授
伊藤清

Ito Kiyoshi

元独立行政法人酒類総合研究所遺伝子工学研究室長。専門は醸造・発酵微生物学。

「焼酎のバラエティを広げたいと考えています。そのために、麹菌が焼酎の味や香りに与える影響を調べ、有用な麹菌のライブラリーをつくります。また、焼酎粕に残る麹菌由来の機能性成分も明らかにし、焼酎粕の再利用に役立てます」



准教授
玉置尚徳

Tamaki Hisanori

元京都大学大学院生命科学研究所助手。専門は応用微生物学。

「酵母はすべてのお酒に関わっている生命体。酵母が、焼酎の味や香りにどのような影響を与えているかを調べます。また、焼酎づくりの酵母を利用して焼酎粕の植物性繊維を分解し、バイオエタノールをつくれなかと考えています」

醸造微生物学研究室



焼酎学講座研究・実習棟

研究は、焼酎製造学研究室と醸造微生物学研究室が中心となり、鹿大の他学部とも連携しながら、幅広く展開していく予定だ。

焼酎製造学研究室では、主に焼酎製造技術の開発に取り組む。焼酎づくりの基本を学びながら、焼酎の味や香りを構成する成分、長期熟成に適した焼酎の性質などについての研究を行い、新しい焼酎製造プロセスの開発を目指す。また、焼酎と健康の関係といった、焼酎のもつ社会性についての研究にも力を入れていく。



醸造微生物学研究室では、焼酎づくりに欠かせない麹菌や酵母といった醸造微生物に関する研究を担当する。麹菌や酵母が焼酎の味や香りに及ぼす影響を明らかにし、焼酎づくりに役立つ微生物を収集・育種する。それにより、新しい味や香りを持つ焼酎の創造を目指す。また、醸造微生物のもつ新たな可能性についても探っていく。

焼酎学講座の教育・研究の場として、新たに「焼酎学講座研究・実習棟」が建設された。焼酎蔵をイメージした和風の2階建て研究・実習棟の中には、麹菌を培養する麹室や発酵室、蒸留スペースなどの設備が整う。学生にとっては、大学にいながらにして焼酎づくりの基本を体験できるようになる。



もろみの分析と蒸留実験を行う焼酎学講座の学生たち

「焼酎学講座が関わる社会人教育」

焼酎学講座は学部生の教育・研究だけでなく、社会人教育にも取り組んでいる。焼酎学講座が関わる「かごしまルネッサンスアカデミー」と、国が支援する「再チャレンジ支援プログラム」を紹介する。



「焼酎文化の歴史」講義風景(原口泉法文学部教授)

かごしまルネッサンスアカデミー

平成18年11月に開講した同アカデミーは、焼酎学講座の教員も講義を受け持つ、社会人向けの教育プログラムである。鹿大が鹿児島県、地元企業と連携し、焼酎など発酵・醸造産業の持続的発展を支える人材を育成するのがねらいだ。「食の安全管理コース」「経営管理コース」「健康・環境・文化コース」の3つに分かれ、今年度は20歳代から60歳代までの54名の社会人が学んでいる。



「商品開発特論～知的財産権の基礎～」講義風景(小池保夫 産学官連携推進機構知的財産部門長・教授)

再チャレンジ支援プログラム

焼酎学講座の大学院修士課程は平成20年度に設置を予定している。今年度は大学院向けに企画した教育プログラムが、文部科学省が実施する「再チャレンジ支援プログラム」に採択され、4名の社会人を大学院生として受け入れた。焼酎だけでなく、商品開発や食の安全についても学べる。大学卒業相当の学力があり、スキルアップや再チャレンジを望む人には、学びなおしの絶好の機会だ。

受講生の声



かごしまルネッサンスアカデミー受講生
住吉あかねさん
[主婦、パート]

鹿児島の文化や食に興味があって受講しています。

以前はマスコミで仕事をしていたが、生活の視点というものがなく、ただ興味のあるものを取材するという感じでした。私は生まれも育ちも鹿児島なので、逆に鹿児島の素晴らしいところを当たり前と思ひ、気づかなかったのかもしれない。

結婚して家事や子育てをし始めてから、

鹿児島の素晴らしさや奥深さに改めて気づかされました。もっと鹿児島のことを学びたいと考えていたところ、「かごしまルネッサンスアカデミー」を知り、健康・環境・文化コースの受講を決めました。

アカデミーは、市民大学や文化講座とは違います。毎回の講義でレポートを提出しなければなりませんし、修了前には発表会もあります。勉強することを厳しく求められるので、講義が「いい話」に終わらず、自分の中に定着していると実感できますよ。

興味深かったのは、工場見学などで焼酎の製造工程を学べたこと。焼酎がどうやってできるのか、麹菌によって味がどう変わるかを知ること、飲むだけだった焼酎に対する見方が変わりました。

講義は楽ではありませんが、受ける価値はあります。受講を考えていらっしゃる方、ぜひチャレンジしてみてください。

受講生の声



再チャレンジ支援プログラム大学院生
若松徹幹さん
[酒造会社勤務]

会社勤めを経て、現在、実家の酒造会社に勤めています。出荷から経理まで、父母と私が中心になってやっているような小さな会社です。焼酎づくりを専門的に勉強したことがまったくないので、将来、会社を継ぐ身として、焼酎のことを基礎から学びたいと、再チャレンジ支援プログラムに入りました。総合大学である鹿児島大学なら、いろいろな角度から焼酎

のことを学べるのではないかと思ったことも理由の一つです。

実際に入ってみたら、期待以上でした。今日受講した「商品開発特論」は、かつて民間企業で働いていた「現場のプロ」の話を知ることができる、とても貴重な機会です。知的財産権から広告など、いろんな角度から焼酎にアプローチすることができ、仕事に役立つヒントをもらうことができます。

現場のプロが大学院で社会人向けに教えるというのは、とても斬新な試みですね。社会人向けの大学院というとベンチャーやITの分野がイメージとしてあったのですが、地元の伝統的な産業について勉強できる場はなかなかないので、貴重な機会だと思います。毎日の仕事の中で疑問やビジョンを持っている人は、絶対に受けてみるべきです。



東京農業大学教授
鹿児島大学客員教授 **小泉 武夫**

こいずみ・たけお／昭和18年福島県の酒造家に生まれる。昭和57年より東京農業大学応用生物科学部教授。農学博士。専門は醸造学、発酵学、食文化論。主な著書に『酒の話』『発酵』『銘酒誕生—白酒と焼酎』など。食に関する著書は90冊を超える。平成18年4月より鹿児島大学客員教授。

焼酎学講座には 日本の若者が注目しています

酒の好みを変えた食生活の変化

日本人の食生活は、この40年間で大きく変わり、肉と油の消費量が40年前と比べて約4倍に増えました。それに伴い、人々が甘い日本酒より辛口の焼酎を好むようになったのだと思います。油の多い料理には辛口の酒が合うんです。つまり、食生活の変化が日本人の酒の好みまで変えてしまったんですね。焼酎はもはや、ブームでなく定着しつつある。焼酎が基幹産業である鹿児島の大学に焼酎学講座ができたのは、当然の流れかもしれません。

焼酎を広める担い手が必要

焼酎をさらに定着させるには、焼酎の技術者や焼酎文化を広める担い手が必要です。鹿児島の焼酎業界には、

21世紀の大学の未来像

鹿児島県は焼酎以外に、黒酢、壺漬、かつおぶしといった発酵食品が豊富な「発酵王国」でもあります。近ごろ話題のバイオエタノールも発酵を利用して生産している。21世紀は「発酵の時代」といつてもいい。鹿大は焼酎学講座を基礎に、発酵学にも力を入れていくのではないのでしょうか。

焼酎学講座は、大学のあり方を示しています。これからの大学は地域に開かれた大学でなければならぬ。鹿大は鹿児島県の基幹産業である焼酎業界と連携し、その発展に貢献することが使命の一つだと思います。また、これからは実学を教えることも必要だと思います。焼酎は学問だけではつくりません。そういう意味で焼酎づくりの現場を指導してきた先生方が教育にあたるわけです。から、「生きた焼酎学講座」になる。

注目を集める焼酎学講座

東京農大で醸造学を学ぶ学生の中にも、卒業後は鹿大の焼酎学講座の大学院で学びたいと希望する人が既に出ています。焼酎はこれからますます重要な産業になるということを、若い人たちが感じているんじゃないでしょうか。鹿児島大学の焼酎学講座には地域社会だけでなく、日本の若者も注目しているということだと思いますよ。

鹿児島の焼酎と 鹿大の独自性を全国へ発信

今後は講座の内容充実とともに、焼酎学講座が、日本の焼酎の教育・研究のメッカとして社会に認知されるために、情報発信のためのさまざまな戦略を展開していく。たとえば、世界各地の蒸留酒の関係者が一堂に会する「世界蒸留酒サミット」や、蒸留酒の文化をもつ中国や韓国などとの「焼酎アジアフォーラム」開催を目指す。今年には焼酎学講座開講を記念し、「九州・四川食品醸造シンポジウム」を鹿大で行う予定だ。

鹿大で焼酎に関する研究に取り組む教員を集めた勉強会をつくる構想もある。昨年の講座設置以来、3回実施されてきた「焼酎学講座シンポジウム」を継続しつつ、来年度以降は、公開講座の実施も計画している。

これからの4年間で焼酎学講座を軌道に乗せ、寄附が終了する4年後以降も、焼酎や発酵の教育・研究拠点として発展させていく。焼酎学講座が、地元の伝統的な産業を核に地域と大学が連携するモデルとなれば、鹿児島の焼酎と鹿大の独自性を日本や世界に向けてアピールできる。動き始めたばかりの焼酎学講座。日本唯一の焼酎の教育・研究拠点として、今後の動向が注目される。

鹿児島から 東南アジア考古学の 魅力を発信

法文学部人文学科地域環境講座の新田栄治教授は、東南アジア考古学で日本の第一人者である。その研究内容や、東南アジア考古学の研究を始めたきっかけについて紹介する。



新田教授が手に持つのはタイのバンチェン遺跡中期の彩文土器。紀元前500～300年頃のもの

法文学部人文学科地域環境講座 教授 新田 栄治

にった・えいじ／昭和23年広島県呉市生まれ。昭和53年東京大学大学院人文科学研究科博士課程（考古学）単位取得退学。日本学術振興会奨励研究員を経て、同年10月鹿児島大学教養部講師に就任。平成4年10月教授、平成9年4月から現職。専門は東南アジア考古学、比較考古学。鹿児島大学埋蔵文化財調査室長、福岡アジア文化賞学術研究賞選考委員などを務める。平成19年6月まで東南アジア考古学会長。著書に『東南アジアの考古学』（同成社、1998）、『水と世界遺産』（小学館、2007）など。



シーテープ遺跡の法輪（写真手前）と新田教授。ドヴァーラヴァティー時代には、法輪が礼拝の対象として拝まれていた。

東南アジア考古学は、比較的新しい学問だ。1960年ごろからようやくデンマークやアメリカによる発掘が始まり、研究が進み始めた。発掘の資金や専門家の数の少なさから、東南アジアの現地国々もなかなか手を付けられなかったのである。新田栄治教授は、1980年代から現地へ入り、東南アジアの遺跡発掘を行いながら、先史時代の実態解明などに取り組んできた。

歴史観を変えた 東北タイの製鉄・製塩研究

新田教授の代表的な仕事に、東北タイの製鉄・製塩に関する研究がある。「東北タイは現在、タイでもっとも貧しい地域の一つ。しかし、この地域からはたくさん遺跡や遺構、集落が見つかっており、15世紀ごろまでは非常に栄えていた痕跡があります。その理由を明らかにし、『遅れている貧しい地域』というイメージを払拭したかったです」と新田教授は話す。

現地での発掘により、製鉄炉、製塩の施設などが多数発見された。東北タイでは紀元前の時代から自然条件をうまく利用し、独自の方法で鉄や塩を生産していたことが明らかになったのだ。東北タイは農業に向かない土地だったが、当時非常に貴

都市の3類型

A類型



不整形円形。先史時代からの居住地域。
内陸部 例：バンチェンヒアン

B類型



不整形円形に方形を足した形。先史時代からの居住地域。都市の方形概念が入り拡張。
内陸部 例：ムアン・ファデー、ムアン・セーマ

C類型



方形。方形都市概念による都市計画によってできた地域。6、7世紀以降に成立。
沿岸部 例：クブア、ナコンチャイシ

* A類型がC類型のドヴァーラヴァティーから文化的影響を受け、B類型へと変化していった。

ドヴァーラヴァティーの都市分布図



重だつた鉄と塩を近隣地域に輸出し、経済的に豊かだったことも判明。「遅れている貧しい地域」とされてきた東北タイの先史時代の歴史観を転換させた研究として、注目を浴びた。

東北タイの環濠集落に 影響を与えた都市国家

新田教授は現在、6世紀から9世紀にかけてタイに存在した都市国家の連合体「ドヴァーラヴァティー」の研究に取り組んでいる。ドヴァーラヴァティーとは、仏教を基盤とする都市国家の連合体の総称で、主にタイ沿岸部に存在したものを指す。

製鉄・製塩研究の過程で、新田教授は東北タイに周囲を濠に囲まれた集落(環濠集落)が多数あることに着目していた。この内陸部の環濠集落と、貿易港として栄えていたドヴァーラヴァティーの都市の形を比較・分析し、内陸の集落がドヴァーラヴァティー文化の影響を受けて文明化していく過程を探っている。

これまでの研究で、都市や集落の形には3つの類型があることが分かった。その類型から、東北タイの環濠集落が近隣貿易の中継地点として発展する過程で、ドヴァーラヴァティーから仏教を取り入れ、次第に文明化していった歴史が見えてきた。これまで、単に点在しているだけだった

たドヴァーラヴァティーと環濠集落の間に、経済発展を軸にしたつながりのあることが明らかになったのである。今後はドヴァーラヴァティーから出土する貨幣についての研究も進め、当時の貿易の実態を探りたいと考えている。



ドヴァーラヴァティーにおいて
広域貿易の高額決済の手段
として使われた銀貨

東南アジア考古学の魅力

学生時代は弥生時代の考古学を専攻していたという新田教授。東南アジア考古学の道へ進むきっかけとなったのは、ベトナム戦争と東大闘争だった。「なぜベトナムのような小さな国がアメリカを相手に互角に戦えるのか、とても不思議でした。ベトナムを支援するデモに参加したこともありましたよ」

東南アジアに関心を持ち始めたころ、世界最古の金属器と彩文土器が発見されたといわれるタイのバンチェン遺跡発掘のニュースが飛び込んできた。当時公表された遺跡の年代に疑問を持ち、バンチェン遺跡の勉強会を始めたのが東南アジア考古学への入口だったという。

「東南アジア考古学を専門とする人は少ないから、自分の研究が学問の最先端になることが多い。真っ白なキャンバスに絵を描いていく仕事は、非常に面白いものです」。

東南アジアの魅力伝えるために

鹿大では法文学部生を対象に考古学を教える一方、共通教育科目「東南アジアの古代文明を探る」においては、アンコールワット遺跡での現地集中講義を実施。学外にも東南アジア考古学や東南アジアの魅力伝えようと、県内外で公開講座や講演活動も行っている。

テレビ番組の制作に協力することも多い。平成5年からは、テレビ西日本(TNC)「東南アジアの歴史と文明シリーズ」という時間番組を5年間かけて、指導・監修してきた。昨年は、東京放送(TBS)「世界・ふしぎ発見!」東南アジア最大のミステリー・ラオス石壺の謎に挑む」という番組で解説を行った。

今後は研究と並行して、近年の研究成果を報告し合う東南アジア考古学のシンポジウムを開きたいと考えている。また、研究者ごとに細分化された東南アジア考古学の研究をまとめ、日本の東南アジア考古学を再構築したいという構想もあためているところだ。

*1 その後の研究で、バンチェン遺跡に金属器が現れてくるのは紀元前2千年紀の終わり頃であること、発掘されたバンチェン後期の彩文土器は紀元前300~100年頃のものであることが判明し、当初発表されたような古い年代のものではないことがわかった。

※「アラムナイ」とは英語で同窓生のこと。
各界で活躍する鹿児島大学の卒業生や
留学生などのユニークな活動を紹介します。

アラムナイ追跡隊

interview

Norio KITAMURA

2006年6月19日、朝7時、ローマ。
一本の電話が私の人生を変えたんです。



日本郵政株式会社取締役
本年10月民営分社化される「郵便事業株式会社」の
最高経営責任者CEOに就任予定

北村憲雄さん

● profile

1941年福岡県生まれ。1967年鹿児島大学文理学部社会学科経済専攻卒業後、トヨタ自動車販売（現トヨタ自動車株式会社）入社。国内車両第四部、貿易研修センター（通産省）、輸出業務部、ヨーロッパ部、ブリュッセル（現トヨタヨーロッパ）出向、トヨタ自動車欧州・アフリカ業務部を経て、1996年イタリアトヨタ社長就任。販売台数をこれまでの約10倍に伸ばし、「イタリアの奇跡」とよばれた。2002年スペイントヨタ会長兼任。2005年イタリアトヨタ、スペイントヨタCEO会長就任。現在、日本郵政公社民営化のための準備企画会社、日本郵政株式会社取締役。2007年10月からの郵政民営・分社化に伴い、現在の日本郵政公社の機能・業務を引き継ぐ5事業会社の一つ、郵便事業株式会社の最高経営責任者（CEO）に就任予定。

イタリアのサッカークラブチーム、
インテルのロベルト・マンチーニ
監督とイタリアトヨタ本社前で

トヨタを受験した日に名古屋城
前で（左が北村さん）

鹿大航空部の仲間たちと
（後列左端が北村さん）

学生時代、下宿の隣りに
あった一之宮神社の境内
にて

人生を変えた

日本からの一本の電話

2006年6月19日、朝7時、ローマ。日本からの一本の電話が私の人生を変えたんですよ。

こう言うのと文学的でしょう(笑)。郵便事業株式会社CEOのお話を最初に頂いたときはイタリアアトヨタで働いていましたから、実際にこういう状況だったんです。

話を聞いて驚きました。イタリアで「郵政民営化」と聞いても、日本とは温度差がありすぎてピンとこない。日本に飛んで帰ると、イタリアアトヨタで成し遂げたことを郵政でもぜひやってくれと、いろいろな方から説得されました。「これだけ期待してくれるのなら、やってみよう。やるしかない」と、皆さんの熱意で腹を決めました。

ビジネスという点では、トヨタも郵政も基本は同じと思っています。「企業は人」ですからね。頑張った人が報われる仕組みをつくり、みんなで知恵を出し合ってやっていきたいと思っています。

「奇跡」と呼ばれた

イタリアアトヨタ時代

トヨタでは国内営業部門を10年、海外営業部門を14年、海外駐在を17年経験してきました。

1996年から昨年までは、ト

ヨタのヨーロッパ五大生産国における販売台数拡大という使命を担い、イタリアアトヨタの経営を任されてきました。また、最後の4年間はスペイントヨタも兼務することになり、イタリアとスペインを毎月往復する忙しさでした。

経営者として常に頭にあつたのは「リスペクト」。人の意見を真摯に聞き、それを行動につなげるという意味です。あらゆる点で日本人とは異なるイタリア人と仕事をするために、彼らとはよく意見を戦わせましたよ。能力給制度を取り入れ、絶えず挑戦の機会を与えることで、「失敗は恥」と考えがちなイタリア人社員の考え方を改めていったんです。

イタリアアトヨタに赴任した当初の販売台数は1万5千台ほどでしたが、「YARIS(ヤリス)」という小型車(日本では「Vitz(ヴィッツ)」の名で販売されている車種)が人気を集め、昨年は約14万台までに伸ばしました。

恥ずかしながら『トヨタ^{*2}「イタリアの奇跡」という本までジャーナリストの方が書かれて出版されました。でも、奇跡は私が起こしたのではなく、イタリア人自身のマインドチェンジによるところ大です。

充実した大学生活と

教授との出会い

大学時代はグライダーに熱中して、学友会や予算委員会にまで入り込んでグライダー同好会を航空部に昇格させました。朝日新聞西部本社が永久貸与してくれるという機体をトラックで大阪本社まで取りに行ったり、他大学のグライダー部と交流したりと、エキサイティングでした。グライダーというスポーツは、空を飛ぶにも着陸するにも一人ではできないスポーツですから、チームワークの精神が備わったと思います。

グライダーも楽しかったけど、特に大学生活を充実させてくれたのは、素晴らしい教授との出会い。地方財政学で教鞭をとっておられた岩元和秋教授からは、公私にわたりかわいがってもらいました。一緒に地方へ調査に出かけたり、東京や大阪から来た学者の方にも会わせてくださったり。芋焼酎を飲みながらの勉強会も多かったね。就職活動では、正直言ってトヨタ以外にも内定をもらっていました。最終的には、トヨタの受験を薦めてくださった方の「将来、自動車産業は絶対伸びるよ」というアドバイスで、トヨタを選びました。鹿大に入学していなければトヨタを

勧めてくださった方との出会いもなかっただろうし、トヨタへの入社も、郵政に関わることもなかったでしょうね。いろいろな方に迷惑をおかけしたり、お世話になったりでしたが、鹿大での学生生活が現在の私をつくりあげてくれたと思っています。

チャレンジ・マインドを持つ

世界は広い。もちろん鹿児島で仕事につきことも一つの選択肢ですが、若い人には、女性も男性もどんだん外に出て一度何かに挑戦するというたくましさ、チャレンジ・マインドも欲しいですね。

私も、トヨタ入社時に体験した夜勤の工場実習とセールス実習での燃えた気持ちは今でも忘れることができません。特に初めてセールス実習に出された時は、売れるんだらうかと心配でした。知り合いいもない土地(東京都品川区大井町)で車を売るわけだから、自分なりにいろいろ工夫して頑張った結果、同期入社社員の仲間でもっとも車売ることができました。失敗しても次にステップアップすればいい。どこにいても、自分で何かをつかむんだという気持ちを忘れないでほしいと思います。

*2 『トヨタ「イタリアの奇跡」』(山内英子著、中央公論新社、2003年9月発行)は、イタリアアトヨタの大躍進の秘密に迫った本。当時、社長だった北村憲雄さんの経営哲学、戦略などを紹介している。

*1 イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、スペインの5カ国。



作品と上松さん。
タイトルは右が「浮かぶ雲のように」、左が「風に遊ばれて」

輝
鹿大生 vol. 3
Maya Uematsu

上松真弥さん
教育学研究科 教科教育専攻
美術教育専修 彫刻分野2年
[愛媛県出身]



「作品を作りながら妥協しないようにしたいです。目標を決めるより、一つひとつを通過点として取り組むようにしています」

プロとして一生好きな彫刻を続けながら、
大学で学んだことを
社会に還元していきたい。

高校では美術部に所属し、美術系の学部への進学を考えていたという上松さん。その頃偶然、鹿大で彫刻を教えている池川直教授の展覧会を愛媛県立美術館で見た。「彫刻はほとんどしたことなかったのですが、その展覧会がきっかけで学びたいと思うようになりました。先生の作品には風景を想像させる、作品が作り出す空気があって、理屈ではない魅力を感じます。私もそういう作品を作れるようになりたいと思っています」

*1 蠟型鑄造法とい

う全国でも珍しい技法で制作した作品を、学部

3年生のころから意欲的に展覧会などに出品し、白日展佳作賞の受賞や日展で二度の入選を果たしている。学部卒業時には稲盛賞を受賞した。

「でき上がったブロンズの質感や独特の作業過程も好きでこの技法で制作しています。これから取り掛かる修了制作は卒業制作から引き続き「風」をテーマにする予定です。堅苦しいものより、校内を散歩する中で感じた風のようなほんわかしたものを、モデルさんの形を借りて表現したいと思っています」

日展が志布志市で開催されていた際、池川教授の作品を見た市長から「お釈迦祭り」の記念モニュメントの制作依頼があり、現在ゼミ全員でその制作を行っている。上松さんは、研究科2年生としてリーダー的存在。「共同で一つの作品に取り組むのは皆初めてで、作業の分担や地域の方々とのやり取りの中で作品をつくるという経験はとて面白い勉強になっています。プロとして一生好きな彫刻を続けながら、こういった大学で学んだことを社会に還元していきたい。そのために、この一年のうちにできるだけたくさんのお仕事を吸収したいと思っています」



お釈迦祭り記念
モニュメント
「誕生」



上松真弥

「真」

自分の名前にも入っている好きな漢字。日々真心や真摯さを大切にし、制作では真剣に物事の真意を追求していきたいと思っています。

私の座右の銘

ナイロコトバ

*2 お釈迦祭り

毎年4月29日に志布志市で行われるお祭り。奈良時代に始まった鹿兒島の3大祭りの一つ。

*1 蠟型鑄造法

塑造(粘土)でつくられた原型(FRP)から型をとり、蠟を流し、蠟原型に置き換える。銅が流れる湯道を付け鑄型をつくり、燃焼させ、1100℃で溶かした銅を流し込む。美術品の鑄造法としてエジプト時代に遡る技法。

鹿大見て あむ紀

「鹿児島大学インフォメーションセンター」

鹿児島大学キャンパスあんない
Welcome to our Campus



地域社会と鹿大を結ぶ新しい情報発信拠点

鹿児島大学郡元キャンパスの新正門(旧農学部正門)前にある、ガラス張りの建物。それが、「鹿児島大学インフォメーションセンター」です。コンセプトは「鹿大のシン

ョーウィンドウ」。鹿児島大学の「今」をコンパクトに紹介し、受験生、地域住民、企業などの訪問者と鹿大との架け橋となるようなコミュニケーションスペースを目指して、平成19年4月2日にオープンしました。

センターの基本設計は、鹿児島大学キャンパス計画室と工学部建築学科建築計画研究室の教員と学生が担当。スタッフ1名が常駐し、センター内の案内とともに、来訪者のご案内、問い合わせなどに対応しています。

センターは、訪問者がご自由にお持ち帰りいただけるよう、鹿大ジャーナル、大学案内、学部案内、鹿児島大学病院広報誌、キャンパスマップ、各センターのニューズレターなどのパンフレットを常備しています。閲覧用として、過去の入試問題、大学概要、学生便覧、JOB HUNTING GUIDE(就職支援ガイドブック)、技術シーズ集なども用意しました。

センター内のテレビでは、鹿児島大学を



4月2日のオープニングセレモニーでテープカットを行う皆川洋一総務・情報担当理事、吉田浩己学長、中島あや子広報担当学長補佐(右から)

鹿児島大学オリジナルグッズのクリアファイル(150円)、竹炭ブロックカゴ(700円)、大学ロゴ入りボールペン(500円)、屋久杉製ハガキ(250円)、ねじめびわ茶(840円)



紹介するDVDや、鹿児島大学の前身である第七高等学校造士館を舞台にした映画「北辰斜にさすところ」の予告編などを放映し、視覚的な情報発信も行っています。センターのオープンにあたり、新たに開発された鹿児島大学オリジナルグッズや、鹿大と企業の産学連携から生まれた商品も並べられました。

「開かれた鹿児島大学」の新たなシンボルとして、展示物、配布物などの入れ替えを常に行い、新しい研究成果などもご紹介していく予定です。ご期待ください。



<鹿児島大学インフォメーションセンター>
開館日時:月曜～金曜(祝祭日を除く) 9:00～17:30
TEL 099-285-3864
E-mail info@kuas.kagoshima-u.ac.jp

▶ 地元企業と 地域再生シンポジウムを開催

3月16日、鹿児島大学や公設試験研究機関、地元企業の関係者が参加し、「九州新成長の時代とかがしま産業おこしへの挑戦 地域再生シンポジウム」が開催されました。



基調講演を行う有馬氏

まず、鹿児島県出身で富士ゼロックス(株)代表取締役社長の有馬利男氏が「企業品質とイノベーション」というテーマで基調講演を行いました。有馬氏は鹿児島独自の産業やビジネスモデルを全国にアピールすることの必要性を力説。環境をキーワードにした「かがしま環境コンセプト」を全国に発信して、力みなぎる鹿児島へ生まれ変わろう、と聴衆に呼びかけました。

続いて行われたパネルディスカッション「産学官連携と地域産業活性化」には、地元企業関係者のほか、本学から産学官連携推進機構産学官連携部門長を務める農学部の安部淳一教授が参加し、企業・大学双方の課題やその解決策について活発な議論を交わしました。



地元企業・鹿大の関係者が参加したパネルディスカッション

▶ 学長と学部卒業予定者との懇談会を開催

鹿児島大学では、3月16日、卒業を予定している学生と学長をはじめとした役員との懇談の場を通して、卒業生から学生生活についての感想や大学への要望等を聞き、それらを今後の大学運営に活かすため、各学部の卒業予定者15名との懇談会を開催しました。

学生からは、「様々な人との出会いで得たものを社会人生活に活かしたい」といった抱負、きめの細かい学生支援や図書館利用の改善等への要望から、産学官連携への取組の推進、教育研究活動の成果を市民に公開する機会の積極的な提供や同大の前身が舞台となった映画「北辰斜にさすところ」を使った大学の



締結式で握手を交わす岡積常治鹿児島県教育長(左)と吉田浩己鹿児島大学長

▶ 教育学部、鹿児島県教育委員会 との人事交流に関する覚書を締結

鹿児島大学は、2月16日、鹿児島県教育委員会と連携し、新しい教員養成カリキュラムの開発・実施等を目的として、同教育委員会の管理下にある現職教員等を定期的に教育学部の専任教員として採用するための人事交流に関する覚書を締結しました。

この人事交流の期間は原則3年で、採用された4名は、教員(教授・准教授)として教育学部附属教育実践総合センターに所属し、新たに設定される実践的科目群の実施、学部および大学全体の教員養成改革やカリキュラム開発に教育学部・大学の教員と共に取り組み、併せて学校教員を対象とした研修講座のコーディネート等を担当します。

これにより、時代と社会の要請、とりわけ教育現場の求める質の高い教員の養成を目的とした新しい教員養成カリキュラムのより一層の充実が図られ、教職を目指す学生にとってはより実践的な教育を受けることが可能となります。

PRの必要性など、大学の活性化に対する提言も出されました。

最後に吉田学長が、「大学の活性化が目に見える形でのからの大学づくりを進めていくので、卒業後も大学に対する支援・提言等をお願いしたい」と述べ、有意義な懇談会を締めくくりました。



▶ 大学発ベンチャー設立を目指す マイクロカプセル技術

工学部の幡手泰雄教授は、マイクロカプセルを利用した省エネルギー、環境に負荷の少ない土壌改良、環境保全型農業を実現する研究を行っています。

マイクロカプセル(MC)は、直径数マイクロメートルの微小型容器。直径1ミリ以下のピンポン球のような構造で、その内部に用途にあった芯物質を閉じこめたものです。現在、氷蓄熱空調に応用可能な「冷熱蓄熱MC」、土に混ぜることで土壌を改良する「有用微生物MC」、農薬を使用せずに害虫を防除する「昆虫フェロモンMC」を開発し、その実証試験でも高い評価を得ています。

このMC技術を事業化する計画が、平成18年度に科学技術振興機構(JST)の大学発ベンチャー創出事業に採択されました。年間6,500万円の助成(平成18-19年度)を受けて起業化につなげるというもので、平成20年1月にベンチャー設立を予定しています。



幡手教授(左端)とパイロットプラント

▶ 農学部獣医学科 先端獣医科学講座が開講

獣医学科では既存の基礎、病態・予防、臨床獣医学講座に加え、全国の獣医系大学の中でも初めてとなる「先端獣医科学講座」の開講が決まり、「新興感染症学分野」と「分子病態学分野」にそれぞれ教授、准教授が着任しました。今後「再生医療学分野」の開設が予定されています。今年度より本格的に教育・研究活動が始動することとなり、4月21日に先端獣医科学講座開講記念式が催されました。

昨今、BSEや鳥インフルエンザに象徴される新興感染症や再興感染症の防疫に関する問題がクローズアップされています。同講座は最新の遺伝子や蛋白質解析技術を導入し、動物の病気について細胞分子レベルでの解明に取り組む。新しい治療法や予防法を開発することを目指しています。同講座はフロンティアサイエンス研究推進センター

▶ 産学官連携で トッピー魚醤プロジェクト



トッピー魚醤の試作品

文部科学省地域貢献特別支援事業(H15~H17)による「島嶼域水圏資源環境開発管理事業」の下で、鹿児島大学水産学部と西之表市農林水産課は共同で、西之表市における水産業の振興に関するニーズに対応した研究に取り組んできました。水産食品加工分野では、トビウオのすり身の製造ならびに製糖工程の際に生じる頭・中骨などの残さいや廃糖蜜の有効利用を目的に、くせない特色ある魚醤の開発を行い、従来の魚醤に比べて魚臭さや塩分を大幅に低減した試作品が完成しました。

平成19年1月17日西之表市役所にて、製造・販売を目的とした技術供与説明会が開催され、地元の民間企業2社から申し出がありました。今後、産官学による製品化への取り組みが行われ、一日も早く市販されることが望まれています。

とも連携しており、鹿児島大学の特色ある教育研究母体の一つと位置付けられ、今後の成果が期待されています。



先端獣医科学講座開講記念式典の様子



▶ 映画「北辰斜にさすところ」 特別試写会を開催

鹿児島大学では、去る4月26日、本学の前身旧制第七高等学校造士館（七高造士館）と旧制第五高等学校（熊本大学の前身）の野球対抗戦を舞台にした映画「北辰斜にさすところ」（監督：神山征二郎、脚本：室積 光、出演：三國連太郎、緒形直人、林 隆三ほか）の学内特別試写会を稲盛会館において開催しました。

本学の教職員、学生や同窓生のほか一般市民を含む約560名が来場した試写会には、「ハチ公物語」や「遠き落日」などで知られる神山監督も訪れ、「鹿児島が舞台の映画であり、ぜひ皆さんの支援をお願いします」と挨拶。

同映画は、製作委員会の代表である法文学部卒業生の廣田稔氏が着想したもので、これまで教職員や学生もエキストラ出演等で協力しているほか、キャンパス内もロケ地として使用されました。



挨拶をする神山監督



▶ 平成19年度スタートダッシュ 学資金授与学生を決定

鹿児島大学では、平成19年度に入学した学生のうち、入学試験において優秀な成績を修めた者に対して「スタートダッシュ学資金」を給付することとし、このほど対象となる学部学生32名を決定しました。

この学資金は、勉学意欲の向上および優秀な人材の輩出などを図ることを目的としており、大学入試センター試験を課した入学者選抜試験に合格し、当該年度の4月に第1年次に入学した者のうち、センター試験の結果が学部または学科（課程）の上位である者が対象。

なお、平成20年度からは大学院生にも対象を広げる予定です。

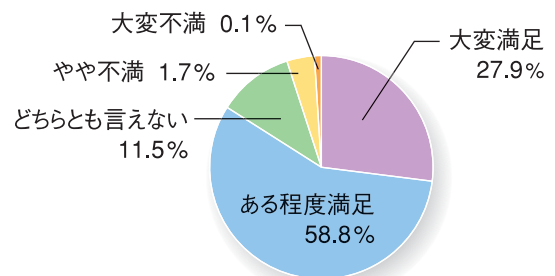
▶ 鹿児島大学の取組に関する 保護者アンケートを実施

鹿児島大学では、平成19年1～2月、本学に学ぶ学生さんの保護者を対象に「鹿大のイメージや学生サービス、情報提供」についてのアンケート調査を行いました。全学部1年3年在籍者の約半数にあたる2209名に送付、1111名にご回答いただきました（回収率50.3%）。

お子さんが鹿大で学んでいることについては9割近い方が「ある程度満足」しているものの、大学からの情報提供には4割近くが不満を感じており、学生や保護者に向けてのサービス、大学としての取組姿勢に関する多くのご意見をいただきました。広報活動だけでなく、大学の在り方に対する貴重なアドバイスとして、今後有効活用していく予定です。

..... <アンケート結果>

お子さんが鹿大で学んでいることについて満足していますか？



お子さんに関連して、もっと知らせてほしい情報は何ですか？（10項目より複数回答）

1位	就職支援や就職状況	838名
2位	学習成果（成績や単位修得状況）	683名
3位	学習内容（教育内容や学年暦等）	525名
4位	大学の教育活動全般	468名
5位	大学の研究活動	326名
6位	大学の社会貢献・地域貢献活動	323名

お子さんに関連して、保護者向けに実施してほしいことは何ですか？（7項目より単一回答）

1位	保護者向け学部通信の送付	512名
2位	成績表の送付	366名
3位	就職に関する保護者向けの説明会	337名
4位	健康診断結果の送付	97名
5位	保護者向け授業公開	85名

回答総数1111名

▶ 公開講座のお知らせ

鹿児島大学では、今年度も一般の方々を対象にした、多くの公開講座を実施します。皆様の受講をお待ちしております。詳細のお問い合わせ・お申し込みは、それぞれの実施部局までご連絡ください。

講座名	問い合わせ先	開催期間	時間数	講習料	受講対象者	募集人員	開催場所
日本国憲法の現在 II	法文学部会計係 099・285・7521	8/18～9/15 (各土曜日) 14:00～15:30	8	3,600	社会人	50	鹿大総研棟102号
人文学を学び、将来に活かす —大学の学びと職業観—		12/8 10:00～17:00	6	無料	高校生、一般	150	法文学部202号
学校カウンセリング基礎セミナー	教育学部 大学院係 099・285・7741	8/6～8/8 9:00～16:20	18	7,600	現職教員を中心とした 教育関係者	60	郡元キャンパス
授業に生かす コンピュータとインターネット		8/9～8/10 9:00～16:20	12	6,400	現場教員等の 教育関係者	35	教育実践総合センター
高齢者の積極的健康づくり —寝たきりにならない、惚けないために—		7月以降(未定) 10:00～11:00	5	3,000	鹿児島市内在住の60歳 以上の健康な男女	40	教育学部第二体育館
人物デッサン		8/4、8/5 9:00～17:00	14.5	5,000	絵画制作経験者	25	教育学部音楽美術科棟
地域に“子ども世界”をつくる 子ども支援論講座		11/1～3/13 月に1、2回(木) 10:00～12:00	15	5,000	成人、父母、特に地域子ども 活動に関心のある方	20	教育学部
広域合併後のまちづくり —コミュニティー、福祉と公民館—		12月～2月の(土) (隔週4回、1日に2講義) 14:00～18:00	15	5,000	まちづくりの担い手、福祉、 町内会や公民館の関係者	20	教育学部
Active Aging —リハビリテーションからケアまで(霧島市)—		8/5 9:00～16:30	6	5,200	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、 ヘルパー、市民一般	100	霧島リハビリテーション センター
臨床理学療法学講座	8/25 13:00～18:00	5	5,000	医療従事者・福祉関係者	40	保健学科研究棟5F	
Active Aging —リハビリテーションからケアまで(鹿児島市)—	9/9 9:00～16:30	6	5,200	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、 ヘルパー、市民一般	100	医学部鶴陵会館	
ALS療養者の在宅支援	9/15 9:30～17:00	6.5	5,400	看護職者	45	保健学科研究棟601号	
Active Aging —リハビリテーションからケアまで(那覇市)—	11/25 9:00～16:30	6	5,200	医師、看護師、保健師、 理学・作業療法士、 ヘルパー、市民一般	100	共済組合自治会館*	
歯科臨床の勘どころ —紹介患者への対応から学ぶ—	11/10 14:00～18:30	4.5	5,000	歯科医師、歯科衛生士、 歯科技工士、歯科医療関係者	50	鹿屋商工会議所(予定)*	
遺伝子工学、機能性材料、環境工学の 現在と展望(仮題)	工学部総務係 099・285・8216	11月(大学祭期間中) 時間:未定	3	無料	生体工学に関心のある 青少年(社会人も可)	30	未定
錦江湾洋上で究極の食育体験を!	水産学部総務係 099・286・4016	9/15 9:00～15:00	6	無料	市民一般	10	附属練習船南星丸
第3回 海岸へ行こう		10/13～11/4 の休日(1日)を予定 9:00～17:00	8	無料	小学生とその保護者	50	鹿児島県内の海岸*
鹿児島の中に日本の未来をみる —地域産業—		9/8、9/15 13:00～16:30	7	3,400	市民一般	50	サンエール鹿児島*
鹿児島の中に日本の未来をみる —地域経済—	9/22、9/29 13:00～16:30	7	3,400	市民一般	50	サンエール鹿児島*	
科学館で夏休み 親子孫夫婦でたのしい仮説実験講座	生涯学習 教育研究センター 099・285・7294	8/16～8/19 10:00～11:30	6	3,200	小学生以上の子どもと その保護者	40組	市立科学館*
夏休み 親子孫夫婦でたのしい仮説実験講座		8/23～8/26 10:00～11:30	6	3,200	小学生以上の子どもと その保護者	50組	生涯学習教育研究センター
大道仮説実験 2		10/13、11/10、 12/8、1/12 14:00～16:00	8	無料	小学生以上の子どもと その保護者	20組	市立科学館*
分子模型づくり講座(初級)		10/28、11/25、 12/16、1/27 10:00～11:30	8	3,600		12組	生涯学習教育研究センター
冬休み 親子孫夫婦でたのしい仮説実験講座		1/5～1/6 10:00～11:30	3	2,600	小学生以上の子どもと その保護者	30組	生涯学習教育研究センター
親子で冒険 かごしまの海と山		8月(全2回) 9:30～16:30	14	4,800	小学4年生以上の子どもと その保護者	10	錦江湾、高隈演習林*
第3回 みんなでつろう 垂水市総合計画(ステップ3)		10/28、11/25 13:00～16:00	6	3,200	垂水市民	60	垂水市民会館*
垂水のエネルギー資源とまちづくり		10月(全2回) 10:00～16:00	10	4,000	垂水市民	40	垂水市民会館*
垂水の農・水・工・商をつなげる まちづくり(1)		8月(全2回) 10:00～16:00	10	4,000	垂水市民	40	垂水市民会館*
たのしい授業入門講座		8/27～8/28 9:00～17:00 (28日は～16:00)	15	5,000	一般社会人および 学校教職員	50	教育学部
大道仮説実験ワークショップ	11/24～11/25 9:00～10:30	3	2,600	一般社会人	40	稲盛会館	
鹿大キャンパスで遺跡を探る —土器や石器をさわってみよう—	埋蔵文化財調査室 099・285・7270	10/20(土) ・10/27(土) 14:00～16:30	5	無料	中学生以上の学生および 社会人	20	総合教育研究棟(文系)
生物多様性と小さな進化 —イネを通してみた世界—	総合研究博物館 099・285・8141	12/8(土) 13:30～15:30	2	無料	一般社会人、学生	未定	総合教育研究棟

* …… 大学外で実施

OPEN CAMPUS

▶ オープンキャンパスのお知らせ

各学部で学部説明会、研究室公開や模擬授業を行います。
高校生、保護者、先生方の参加をお待ちしています。

鹿大なんでも情報版
Kagoshima University
Information



- 定員が定められている企画では参加者を調整することがありますので、事前に参加したい学部へ「各学部参加申込書」により直接お申し込みください。
 - 実施時間等の詳細については、各学部にお問い合わせ下さい。
- また、本学HP (<http://kss.kuas.kagoshima-u.ac.jp/nyushi/nyu/oc/oc-top.htm>) を参照してください。
- 台風等で予定日に実施できなかった場合、8月16日・17日に実施しますが詳しいことは決まり次第、ホームページ上に掲載します。

学部 (問い合わせ)	実施日	会場	企画名
法文学部 ☎099-285-7525	8/3(金)	法文学部 講義室など	●学部説明会(400名) 模擬授業3科目... ●「格差社会と法」(150名) ●「環境経済学への招待」(200名) ●「考古学から見た薩摩焼」(200名)
教育学部 ☎099-285-7713	8/3(金)	教育学部 講義室など	●学部説明会、模擬授業8科目... ●「たのしい授業への招待」(300名) ●「ものづくりは人づくり」(50名) ●「住まいるな話(住宅情報の見方)」(200名) ●「英語リスニング、スピーキング能力の向上方法について」(150名) ●「障害者理解の旅」 ●「『やる気』の話」(100名) ●「楽しい環境地図づくり」(100名) (100名) ●「私たちの生活に使われている化学物質の役割とは？」(24名)
理学部 ☎099-285-8025	8/2(木) 8/3(金)	理学部 講義室など	2日 物理科学科(40名程度)・・・「体験物理学」、「体験宇宙観測」 3日 数理情報科学科(90名)・・・「べきと階乗べき」、「計算機教室での体験実習」 生命化学科(50名程度)・・・「研究室見学と体験学習」、「ポスターパネル展示会」 地球環境科学科(50名程度) ...午前の部「火山のはなし」、「離島の野生植物の『個性』を測る」 午後の部「化石に触れてみよう、鉱物を顕微鏡で観察してみよう」「水を分析してみよう」
医学部 ☎099-275-6721	8/3(金)	医学部 鶴陵会館など	●学部・学科紹介 ●入試要項説明 ●施設見学 など
歯学部 ☎099-275-6040	8/3(金)	歯学系 第1総合示説室	●学部紹介 ●入試説明会 ●プロモーションビデオ上映 ●体験実習(実験)
工学部 ☎099-285-8232	8/3(金)	稲盛会館など	●学部紹介 ●各学科紹介 ●入試について ●「第9回テクノファクトリーへの招待」(250名程度) ●各学科の「体験講義A」および「体験講義B」
農学部 ☎099-285-8531	8/2(木) 8/3(金)	農学部 講義室など	●「エコ探検隊」(2日:6コース、3日:5コース) ●「バイオ探検隊」(2日:2コース、3日:3コース) ●「アグリ探検隊」(2日:3コース、3日:2コース) ※各コースに定員があります。
水産学部 ☎099-286-4040	8/2(木)	水産学部 練習船・講義室など	●学部紹介 ●乗船体験 ●「海洋と環境の科学コース」(15名) ●「魚の生体防御機能を調べるコース」(8名) ●「海産食品の食中毒菌を遺伝子で調べるコース」(15名)

同時開催

九州地区国立大学進学説明会

実施日時: 8/3(金) 10:00~16:00
開催場所: 鹿児島大学郡元南食堂(教育学部キャンパス内)
問い合わせ先: 鹿児島大学学生部入試課 ☎099-285-7061

参加大学(個別相談ブースを設置する大学)

各国立大学の入試関係の教職員が、参加者からの相談・質問などにお答えします。
福岡教育大学、長崎大学、佐賀大学、熊本大学、宮崎大学、鹿児島大学、鹿児島大学、鹿児島大学(学部毎に設置します。但し、医学部、歯学部は除く。)

▶ 行事予定(2007年8月~11月) どなたでも参加できます。皆様方のご来場をお待ちしております。

鹿児島大学総合研究博物館 第7回特別展「鹿児島湾の自然史」
平成19年10月15日~11月15日 10:00~17:00 期間中無休
鹿児島大学郡元キャンパス 総合教育研究棟2Fプレゼンテーションホール
*入場無料、大型バス等での来場の際は事前にご連絡ください。
お問い合わせ≫総合研究博物館 ☎099-285-8141

第4回「夏休み子ども見学デー」
平成19年8月24日(金) 募集締切:8月17日(金)
鹿児島大学附属中央図書館
お問い合わせ≫情報管理課総務係 ☎099-285-7415



(表紙イラスト)

●鹿大から世界へ
日本初の試みを次々と打ち出している鹿児島大学。学生たちは、鹿児島大学独自の教育・研究プログラムの中で学びを深め、社会に貢献できる能力を身につける。彼らは鹿児島だけでなく、日本各地、世界へ飛び出し、各分野のトップランナーとして活躍していくだろう。

本号は、本学の日本初の試みを掲載しました。第一に、専門職大学院として、臨床心理士を養成する研究科を独立して設置したのは本学が日本初であること。第二に、焼酎の教育・研究拠点として、本学に日本初の「焼酎学講座」が開講したこと。これらは本学が自信をもって全国に発信する教育・研究です。

また、本学の卒業生として、イタリヤトヨタでの経営が高く評価されて日本郵政株式会社取締役役に就任した北村憲雄氏を紹介しました。「鹿大での学生生活が現在の私をつくりあげてくれた」(13頁)と氏の言うように、社会に貢献する人材の養成を目指す本学の教育・研究の大きな結実であると誇らしく思います。

さらに本学の独自性をいかした鹿大ブランドを創造し発信していきたいと思っております。

広報誌等編集専門部会部長
中島あや子

編集後記

ご感想・ご意見は鹿児島大学広報誌等編集専門部会(総務部総務課広報室 広報・情報公開係) 電話099-285-7035/E-mail sbunsho@kuas.kagoshima-u.ac.jpまで。